

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076200452
法人名	社会福祉法人全和会
事業所名	グループホームわかば
所在地	福岡県飯塚市太郎丸字一ツ木499-1
自己評価作成日	令和2年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和2年2月7日	評価結果確定日	令和2年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の造りは、平屋で廻廊式になっており、四方がガラス張りで造られております。程よい明るさと温かさが快適です。冬季は食堂と、居間に整備している床暖房が稼働しています。夏は中庭に植えた夏野菜(ゴーヤや胡瓜)が緑のカーテンになり菜園と鑑賞も楽しめます。又生活の中では季節感を重視し、施設行事や年間行事を施行しています。毎日の食事の中に季節の食材等を取り入れ自宅にいた時と同じように生活してほしいと考えています。又、天気の良い日には中庭で日光浴をしながら、お茶を飲んで頂いたり、他者との交流をしながら花を觀賞していただきのおんびりとした日常も感じて頂けたらと工夫をしています。尚体調管理に関しては皆様に水分摂取量を一日1,500cc以上を目標になるべく緩下剤等を使わず便秘を解消し、自然排便が出来るように支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路から少し入った場所に位置する平屋建て2ユニットの事業所は、開設して15年目を迎える歴史を持つ。中庭を中心とする回廊式となっており、開口部も大きくとられ、開放的である。夏場にはゴーヤ等にて日差しを和らげたり、生活習慣の継続として日常的に布団を干す方がおられる等、閉塞感を感じない環境である。センター方式を参考にしたアセスメント様式を用い、個別の暮らしの継続に向けた支援に努め、町内会の総会にて災害時の連携や協力を依頼する等、地域密着型サービスとしての役割にも向き合っている。また、協力医療機関や訪問看護との連携を密にしながら、終末期のケアにも向き合い、暮らしの継続の延長にある看取りを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念に沿って行動し支援を行っている	採用時の判断基準として、また、採用後の職員育成にあたり、理念の共有を重要視している。利用者の方々が自然体で自分らしく過ごせることを支援し、職員教育を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	町内会隣組に加入し、回覧版を回したり、地域の方と挨拶を交わしたり、交流できる機会を持つようにしている	町内会に加入し、回覧板にて地域行事や活動等の情報を得て、リサイクル活動や神社清掃に職員が参加している。同法人障がい者施設との合同イベントには、地域より100名を超える参加を得ている。町内会の総会に出席し、災害時の協力を依頼している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方に気軽にホームへ来て頂き、見学等を行ってもらっている。又、高齢者との接し方を聞かれたりすることもあるので経験をもとに話をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度会議を開催し、施設行事の報告や、利用者の状況報告を行っている 地域住民代表の意見や家族代表の意見を聞いてサービス向上に活かせるように取り組んでいる	利用者や家族、児童民生委員、地域包括支援センター担当者等の出席を得て、2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。運営状況の報告や地域情報の共有を図り、意見や提案をサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。議事録は行政へ提出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の制度について相談したり、保護課の方々に生保関係の制度について尋ねたりして連携を取っている	運営推進会議には、地域包括支援センター担当者の出席を得ており、事業所の実状を共有して頂き、開かれた運営に努めている。また、SOSネットワーク模擬訓練等について、相談等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みを理解しながら、職員による声掛け、ケアを行っている 玄関の施錠等は、利用者の安全面も考慮しながら夜間帯・早朝を除いては常に開錠している	身体的拘束の適正化に向けた指針の作成や定期的な委員会開催、研修実施等を通じて、関係者との共通認識を図っている。日中は、玄関の施錠は行われておらず、中庭へ出て布団を干す方の姿もみられる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員へ研修の機会を設け、持ち帰りの研修やメディア等で目にする事耳にすることを申し送り時に共有している また虐待について勉強したり、職員間で話し合い防止に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で、学びの場を持ち職員間で実際に活用できるように学ぶ必要があるという意識をもっている	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、運営推進会議の中で情報提供を行った実績もあり、これまでの活用事例から学ぶ場面も多い。	研修参加や資料を整備し、必要時には活用に向けた支援が行えるよう取り組んで欲しい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が対応、家族の不安等については説明を行い、都度理解・納得を図っている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱等の設置を行い、遠慮なく意見をもらえるようにしている 又、面会の際定期的に困り事や、心配はないのかを聞ける関係づくりに努めている	運営推進会議には、利用者及び家族の参加を得ている。日々の家族来訪時や利用料の支払いの際には、意見や要望の聴取に努め、直接意見を頂くことも多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を行い提案や意見を聞く機会をもうけている	定期的な職員会議の際には、事前に議題を提示する他、止むを得ず参加できない職員より聴き取りを行い、会議の中で反映する等、職員が意見を表出しやすい配慮に努めている。排泄用品の管理等、職員意見により業務改善となった事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員に対する労いや、心配りがあり、年末には全職員へクリスマスケーキの配布や、忘年会内容の充実等向上心が持てるように整備されている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や、年齢・資格等について応募者を排除することなく、やる気と元気で熱意のある方を採用している 全く初めてで経験のない方も採用対象としている	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。介護支援専門員の資格も含めて、資格取得や研修受講費用をサポートしている。クリスマスには全職員にケーキが配布され、法人忘年会では景品も用意される。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権研修や、啓発活動や講演会等職員が受講する機会を積極的に設けている	高齢者虐待防止や尊厳を守るケア、同和研修等の外部研修に参加し、内部での伝達を通じて、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修受講の機会を設けている 又先輩職員とチームを組み、働きながらトレーニングできるように進めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に地域密着型連絡協議会があり、市内の同業者が1～2ヶ月に1度集まる機会がある その会議の中で情報の交換等行い、サービスや質の向上等に努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学等をして頂いたり、本人や、家族の希望、意向に沿ったものを一緒に考える機会を持ち、関係づくりに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者会議や、家族からの聞き取りなどを行ったときに、遠慮なく話していただける関係を作るため、家族面会の時は日頃の生活の報告を行っている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談の段階で家族や、本人の必要とするものを言葉や、行動の中から見つけ、何を望んでおられるのかを見極めるよ事が出来るように努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事、負担にならないことを見つけ、施設の日常に参加して頂き、日々生活を支援している (洗濯物干し・畳み・食事盆ふき等)		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族からの申し出や、訴えに都度対応し、向かい合う姿勢を持って対応し、関係性を築いている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所の昔話や、長くお付き合いされた友人の方々が訪ねてこられた時のサポート、手紙のポスト投函等の支援を行っている	家族の協力も得ながら、馴染みの美容室の利用や、車椅子で自宅まで帰る等の支援が行われている。近隣から入居されている方も多く、地域の盆踊りが事業所前で披露される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席の配置や、レクリエーション時の場所の配慮、また日常の心身状態や、気分の明暗等を観察しながら他者との交流場面の支援を行うように努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も気軽に来初頂いたり、電話をもらったり出来るような関係づくりにつとめている 退所後のフォローも希望があればできるように努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさをなくさない為に、行動やしぐさ、会話の中から、本人の意向を探り、安心できるように努めている	センター方式を参考に独自のアセスメントシートを作成し、生活史や馴染みの暮らしに関する情報を収集している。言葉や表情の変化、仕草等から気づきを得ながら、職員間での共有と本人本位の検討に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や、馴染みを壊さないようにまた本人が困惑しないように支援を行うように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの日常の過ごし方を把握し、できる事を本人のペースで行って頂く 無理強いをせず個々のペースでできる事を支援していくよう努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来るだけ、家族面会時は、日常の報告等を行い、家族との関係を性を重視しながら、現状に即したものを常に考慮している	日々の記録に介護計画を表示し、計画に基づいた記録を目指している。定期的なカンファレンスやモニタリングを通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	モニタリングを行いながら、日々の過ごし方を記録に残している また、職員間で情報の共有を行いながらケアプランの見直しに繋ぎ、より良いケアを目指している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望や外出欲求が出現したときは出来るだけ寄り添い、不安を取り除くように努めて、日々の状態にあわせている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	わかばの夏祭りや、秋祭り、餅つき等施設行事にできるだけ、多くの地域の方々にボランティア参加を頂き、利用者様も安全に参加できるように支援に努めている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段と違った状態になったときは必ず看護職員や、上司に報告し、受診時も家族と一緒に付き添っていき様をしている	家族との連携を図りながら、かかりつけ医への受診を支援している。また協力医療機関への受診については職員が対応し、関係者間での情報共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違った状態になったときは、必ず看護職員や上司に報告を行う 受診時も家族と一緒に付き添っていき家族の不安も緩和できるように努めている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は必ず施設職員が付き添い、施設での状態を主治医や、医療関係者に告げ、その後の医療側からの連絡・調整も家族とともに考え支援している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設の協力医と家族、施設職員との話し合いの場を持ち、可能な限り、施設でできる事を家族にも理解して頂き終末期の向けて方針の共有に取り組んでいる	入居時に、事業所としての方針や医療との連携体制について説明し、意向を確認している。協力医療機関や訪問看護との密な連携を図り、看取りを支援している。24時間シートの活用や外部研修参加等を通じて、チームケアの質を高める取り組みがある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応のマニュアルがあり、ADEも設置してある 又、年に一度救急救命講習を受講する機会があり、新人職員が入職したときは受講できる機会がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行い、災害時に向けて回避できる方法を学び、市発行の防災マップや、災害時マニュアル等も活用している	出火場所の想定を変更しながら、夜勤者の出勤時間にあわせ、夜間想定訓練を実施している。隣接するタクシー会社との協力関係や、町内会の総会に出席し、協力・連携を依頼している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けし、入浴、排せつ時など、プライバシーの保護と尊重に気を付けている	虐待のチェックリストを用い、職員個々の意識向上に取り組み、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。また、生活習慣の継続や居場所の確保、時間の流れ等、個別の配慮が行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を確認し、対応に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の要望には可能な限り寄り添っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の寝癖直しや、季節に沿った衣類選びをしたり等支援している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に準備や片付けをしていただき、作り方など教わったり、味を見てももらったりして、楽しんで頂ける場面もある	食材業者も活用しながら、不足品の買い出しや調理を事業所で行い、手作り料理を提供している。地域の精米したての米を用い、利用者も準備や調理、後片付けに個別の役割を担ってもらっている。嗜好品の摂取にも柔軟に対応している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療的に水分制限のある方を除き、ほとんどの方が、一日1000cc～1500ccをめざし摂取していただけよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	講習や、研修に参加した職員が職場内で内研修を行い、研修に参加していない職員も学習し口腔ケア・清潔保持について学ぶ機会を持っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで自立される方には、時間間隔で、促し排泄支援を行う また、オムツの対応の方に関しては排泄のコントロールをつかみ、不快にならないように早めに誘導を行い支援に努める	個別の排泄状況や機能の把握に努め、カンファレンス等にて、個別の必要な支援について検討されている。日中はトイレでの排泄を基本として、声掛けや誘導を行うとともに、水分量や乳製品の摂取等にも個別に対応し、便秘予防に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の申し送り時に水分の摂取を把握し積極的に促しを行う、又食物で自然な排便が出来るよう食物繊維の摂取も常に考慮している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	開設当時から入浴日を変えることなく行っており、出来る限り利用者様の意に添うように配慮している	月・水・金曜日を基本的な入浴日として設定し、希望や体調、状況等に応じて、シャワー浴も含む柔軟な対応に努めている。個浴を基本とするが、仲の良い方同士での入浴の機会もあり、季節湯等、入浴を楽しむ機会の確保に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用様の体調にあわせ十分な安息と睡眠が取れるように、就寝薬の処方や、昼食後の午睡等適宜観察を行っている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員管理とし、利用者一人一人に合わせた服薬の処方を職員は理解しており支援に努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品に関しては、家族が持ち込まれたものを職員が預かり、おやつ時間に提供し食して頂いたり、施設側から順番に個々の好みに合わせて応えるように提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る崖寄り添、一緒に外出したり近くの自動販売機でジュースを買いに行ったり、安心安全に過ごせるよう努めるようにしている	玄関前での日光浴や中庭で布団を干す方、銀行にて出金手続きを行う方、家族の協力を得ながら自宅の様子を見に行く方等、個別の外出機会の確保に努め、サポートを行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の「お金」自己管理している利用者様はおられますが定期的に参勤確認の声掛けを行い支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われた時は時間を決め、使用できるようにしている また、手紙等はポストの投函・切手購入等の支援をしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒などがないように空間整備に努めている また、日光・温度などが激しい時期は光調整を行い、快適に過ごせるように工夫をしている 季節の野菜や花の鑑賞も視野に入れている	広い中庭を中心として、2ユニットが回廊式でつながっている。開口部も大きくとられ、採光も良く、開放的である。ゴーヤやキュウリ、朝顔等が日差しを和らげ、生育や収穫の喜びを楽しむことができる。床暖房が設備されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファ・テレビ・カラオケ器具等を設置しており、テレビを見たり音楽を聞いたり他者との交流をしたり、また一人で居室で過ごしたりと個々の時間を自由に使ってもらって日々過ごして頂いている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた使い慣れた物。馴染みの物を持ち込まれ居心地良く使われている方もおられる	ベッドの配置や冷蔵庫、ソファ等の持ち込みも含めて、個別性ある居室空間が確保されており、生活感が感じられる。生活習慣の継続としての布団で就寝している方もおり、個別の居室空間づくりに配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設建物は廻廊式になっており、中央には中庭があり、季節の野菜や花を植えてます また、施設四方にトイレや洗面台を設置しており、自己にて排泄・洗面等が出来るような造りになっている		